



# 立高から世界へ～解なき時代にたくましく挑み続ける国際性豊かな科学技術人材の育成～

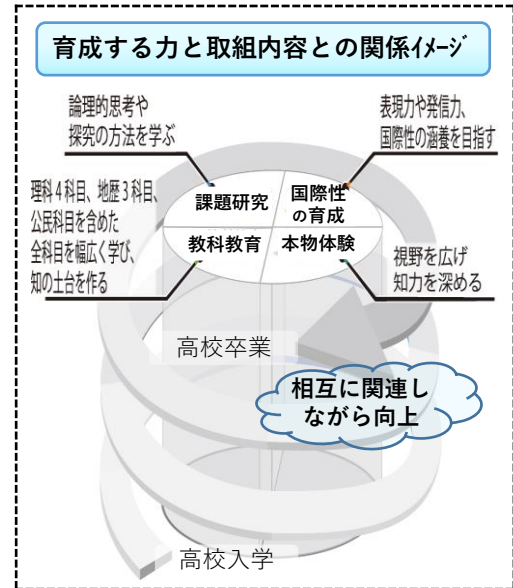
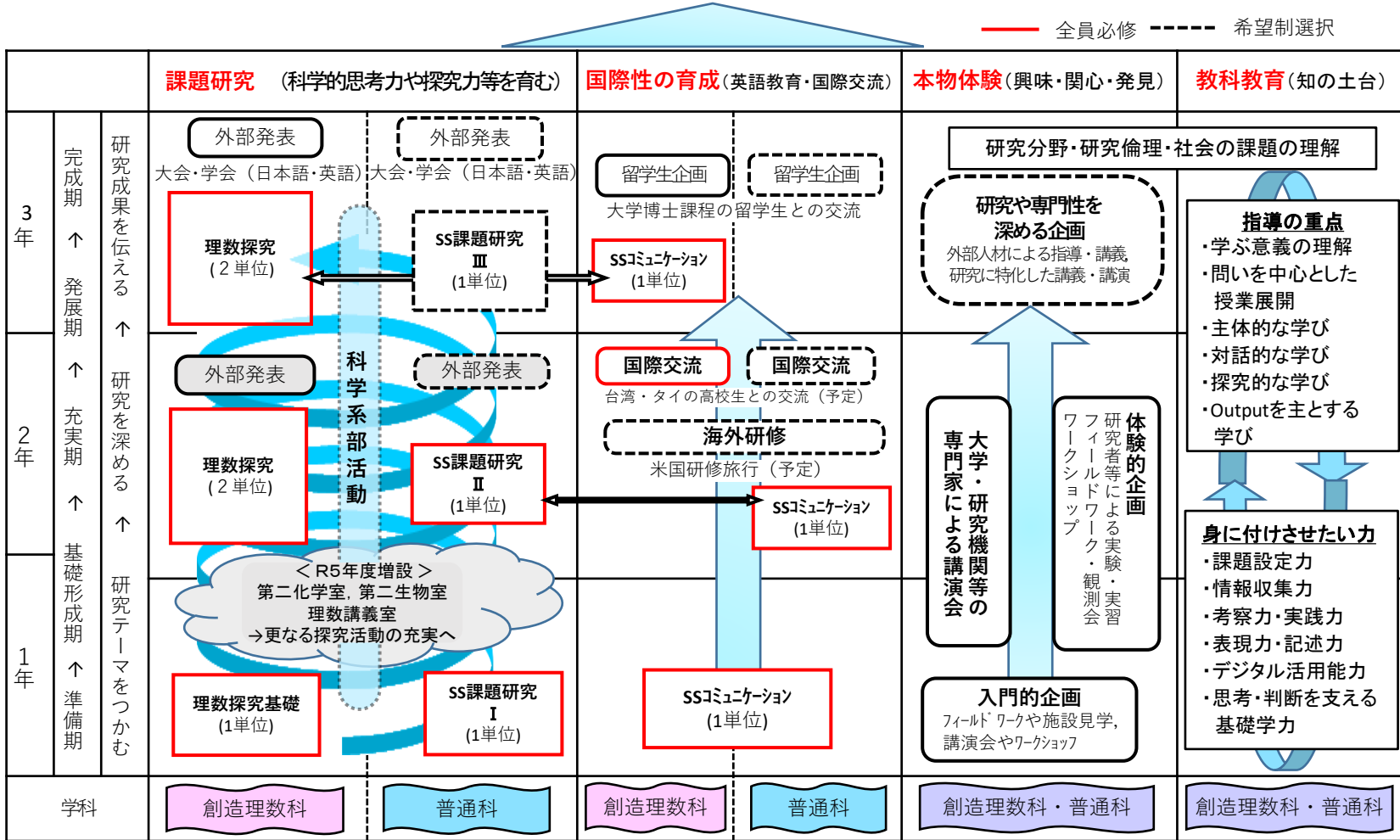
東京都立立川高等学校  
創造理数科・普通科

SSH II 期目  
(R5～R9)

研究開発課題①：課題研究を中心とし、国際性の育成・本物体験・教科教育を融合させた全校体制（創造理数科+普通科）の科学技術人材育成プログラムの開発  
研究開発課題②：SSH II 期目事業の成果に関する評価方法の開発・結果活用及び新たな推進体制・支援体制の構築

目指す生徒の姿

文系・理系によらず、教科等で学んだ知識や技能、課題研究を通して身に付けた科学的思考力や探究力等を活用し、将来の科学技術情報社会で主体的・協働的に、粘り強く探究し続けることができる国際性豊かな生徒



**SSH事業を支え、推進する仕組み②**  
全校体制推進・研究サポート体制構築

【全校体制】校長統括の下、SSH主任、理数科長、探究部長を中心に推進。全員が研究推進班・企画運営班・総務普及班に所属

・指導力向上のための研修会の実施

【研究サポート体制】本校卒業生・研究者・学生等を主とするコンソーシアム設置

**SSH事業を支え、推進する仕組み③**  
SSH事業内容及び実績・成果の普及

- ・学校HP公開「Tachikawa SSH News」
- ・「課題研究要綱集」「研究集録集」の発行
- ・「SS課題研究」「理数探究」通年授業公開
- ・教員・教育関係者対象「課題研究情報交換会」
- ・小中学生対象「科学教室等」市教委と連携
- ・他校参加型「課題研究発表会」→拠点校化へ

**SSH事業を支え、推進する仕組み①**

評価方法の開発・改善  
評価結果の活用・反映

生徒による評価：生徒が達成度を客観的に認知し、自己の研究の改善につなげる評価  
教員による評価：SSH諸活動を含む学校生活全般における生徒の変容を見取る評価  
外部による評価：SSH運営指導委員、研究発表会助言者（大学教授・研究者・TA等）による客観的評価  
実績に基づく評価：大会・学会発表、科学オリンピック出場及び入賞、大学進学実績等による客観的評価

コンピテンシー評価